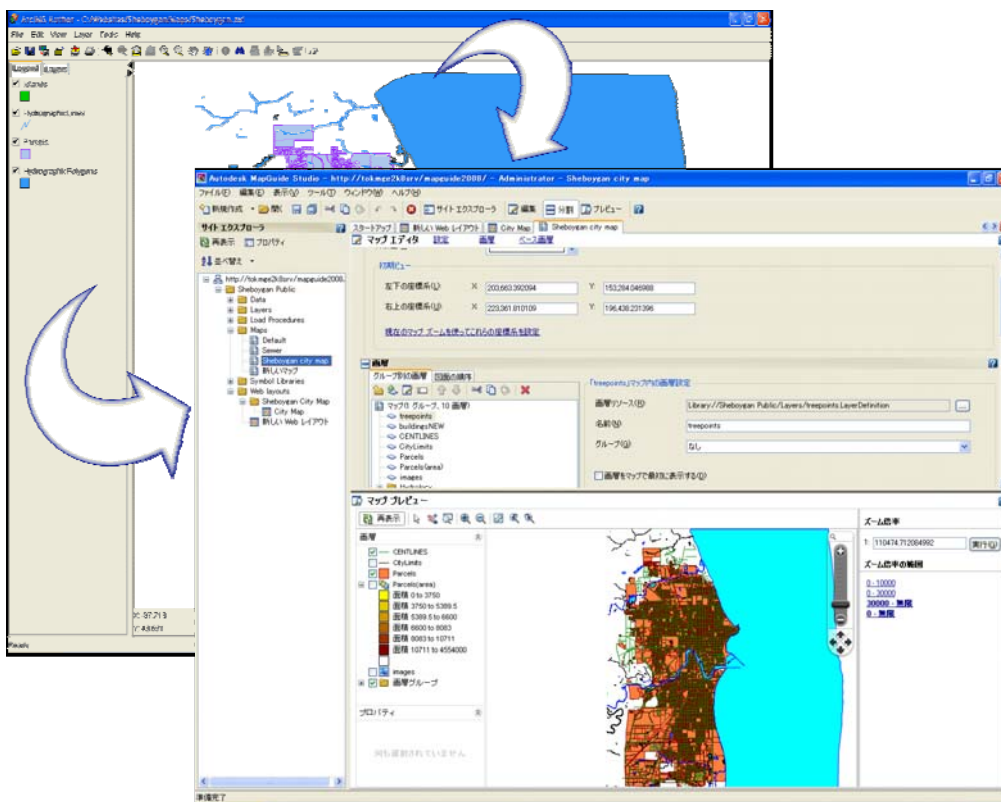


Autodesk MapGuide®  
Enterprise

# Autodesk MapGuide Enterprise への移行— ESRI ArcIMS ユーザ向けガイド



この技術ホワイト ペーパーは ESRI® ArcIMS® ユー  
ザが Autodesk MapGuide® Enterprise に移行する  
場合にガイドとして活用してください。

著者: アレックス フォーダイス、オンライン マッピング ソリューション

## 著者について



オンライン マッピング ソリューション LLC は、2001 年にアレックス フォーダイスによって設立され、Web ベースの GIS アプリケーション開発を柱にしたテクノロジー ソリューションを提供しています。アレックス フォーダイスはこれまでの職歴を通じ、オートデスクと ESRI の地理空間プラットフォーム上で広範な顧客のアプリケーションを構築してきました。ボストン大学で環境問題研究の BA を取得。12 年以上 GIS に関わった経験の中で、多数の異なるテクノロジーを使用して Web ベースの GIS アプリケーションの設計開発から、デスクトップの GIS データ作成、管理まで多くのプロジェクトに関わってきました。

オンライン マッピング ソリューション LLC は、GIS テクノロジーを使ってインターネットと Web 型アプリケーションからメリットを得られるよう、クライアントを支援するために設立されました。

[www.onlinemappingsolutions.com](http://www.onlinemappingsolutions.com)

## 目次

|  |           |
|--|-----------|
| <b>アーキテクチャ</b> .....                                     | <b>4</b>  |
| <b>プラットフォーム</b> .....                                    | <b>5</b>  |
| Autodesk MapGuide Enterprise .....                       | 5         |
| ESRI ArcIMS .....  | 6         |
| <b>コンポーネントの比較</b> .....                                  | <b>7</b>  |
| Autodesk MapGuide Enterprise テクノロジー.....                 | 7         |
| ESRI ArcIMS テクノロジー .....                                 | 9         |
| <b>移行の事例</b> .....                                       | <b>12</b> |
| プラットフォームと環境 .....  | 12        |
| データの移行 .....   | 12        |
| 地図画層の移行.....   | 14        |
| 機能の移行.....   | 16        |
| <b>機能の比較</b> .....                                       | <b>21</b> |
| <b>終わりに</b> .....  | <b>21</b> |
| <b>出典</b> .....  | <b>22</b> |
| <b>補足資料: Autodesk MapGuide Enterprise の特長とメリット</b> ..... | <b>23</b> |

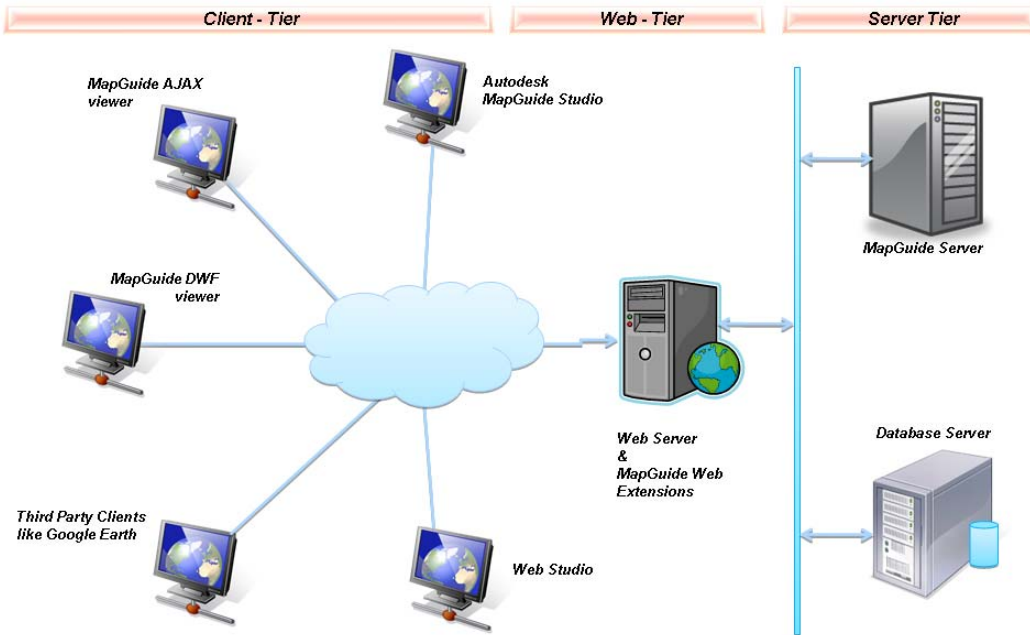
## はじめに

このホワイトペーパーは、ArcIMS<sup>®</sup>を利用して、他の Web ベースの GIS (Geographic Information System) ソリューションを探しているユーザ用に作られています。ここでは ArcIMS から MapGuide Open Source や Autodesk MapGuide<sup>®</sup> Enterprise に移行するのに役立つガイドラインを説明します。

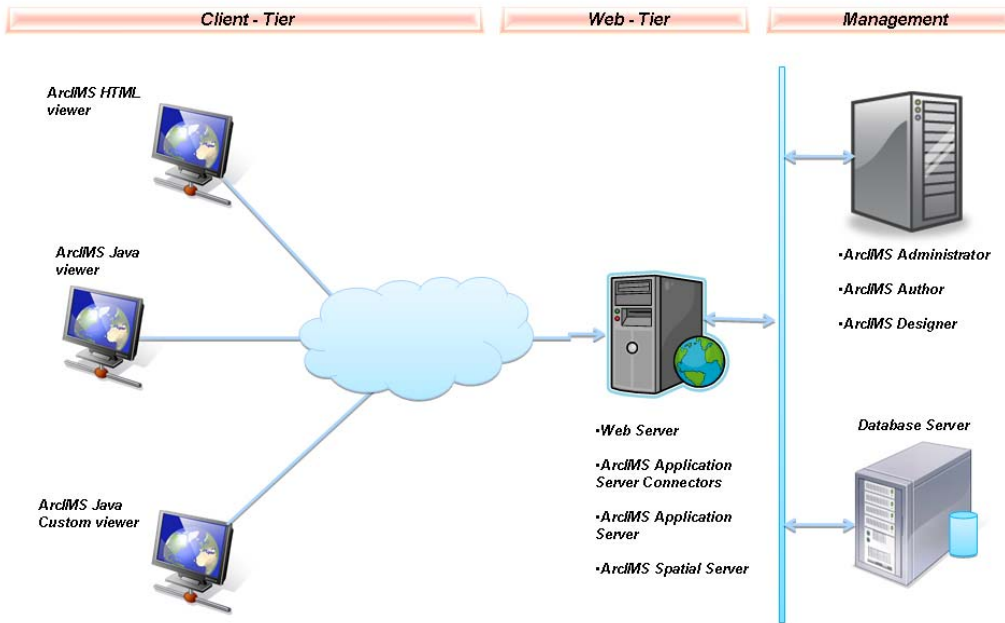
## アーキテクチャ

以下の図で、Autodesk MapGuide Enterprise と ESRI ArcIMS のアーキテクチャを説明します。

**Autodesk MapGuide Enterprise Product Architecture:**



## ESRI ArcIMS Product Architecture:



## プラットフォーム

以下に Autodesk MapGuide Enterprise と ESRI ArcIMS が対応するプラットフォームを簡潔に解説します。

### Autodesk MapGuide Enterprise

#### ビューア

- DWF™ ベースのビューアは、Microsoft® Windows® XP Professional および Home Edition、Windows 2000 (SP4)、Windows 98 SE のオペレーティング システムと、Microsoft® Internet Explorer® 6.0 および 7.0 のインターネット ブラウザに対応。
- AJAX ビューアは、Asynchronous JavaScript® と XML を使って、地図および空間データをブラウザで表示します。プラグインを必要とせず、Internet Explorer、Safari™ および Firefox® を含む大部分のブラウザに対応しています。

#### サーバ

- Linux®: Red Hat® Enterprise Linux Version 4
- Windows: Microsoft Windows 2000 Server (SP4) または Windows Server® 2003 (SP1 または SP2)

**注:** Windows XP Professional はデモンストレーション用には使用できますが、サーバ プラットフォームとしては対応していません。Windows XP 上で動作するマイクロソフト インターネット インフォメーション サービス(IIS)は、限られた数の HTTP 接続にしか対応していないため、お奨め

できません。デモンストレーション用として Windows XP を使用する場合には、Web サーバとして Apache™ をお奨めします。

#### Web サーバ

- Apache HTTP Server 2.0
- Windows 2000 上で動作する Microsoft IIS 5.0
- Windows Server 2003 上で動作する Microsoft IIS 6.0

#### アプリケーション開発

- PHP 5.2.1 (Windows 版または Linux 版)
- .NET Framework 2.0 (オプション、Windows のみ)
- Java® Development Kit (JDK™) 5.0 および Tomcat™ Servlet エンジン バージョン 5.5.12 (オプション、Windows 版または Linux 版)

#### FDO コンポーネントのバージョン

- FDO 3.2.2

## ESRI ArcIMS

#### ビューア

- Java プラグインに対応したブラウザ上に限定されるJava® ベースのビューア(プラグインが必要)
- Internet Explorer や Firefox ブラウザなど、ほとんどのブラウザをサポートする HTML ベースのビューア。(プラグインは不要)

#### サーバ

- HP-UX®, IBM® AIX®, Linux-Intel® Red Hat、Windows 2000、Windows 2003、Windows XP、Sun® Solaris®

#### Web サーバ

- Apache HTTP Server
- Windows 2000 上で動作する Microsoft IIS 5.0
- Windows Server 2003 上で動作する Microsoft IIS 6.0
- Linux-Intel Red Hat 上で動作する JBoss
- Windows 2000、Windows 2003、IBM AIX、Sun Solaris、Linux-Intel Red Hat、HP-UX 上で動作する Oracle® Application Server
- Windows 2000、Windows 2003、IBM AIX、Sun Solaris、Linux-Intel Red Hat、HP-UX 上で動作する Sun Java System (Sun ONE)
- Windows 2000、Windows 2003、IBM AIX、Sun Solaris、Linux-Intel Red Hat 上で動作する WebLogic®
- Tomcat Servlet エンジン

## アプリケーション開発

- ArcXML
- ActiveX®/COM/ASP
- .NET 2.0
- JDK
- Cold Fusion®

# コンポーネントの比較

このセクションでは、Autodesk MapGuide Enterprise と ESRI ArcIMS を構成するさまざまなソフトウェア コンポーネントについて解説します。

## Autodesk MapGuide Enterprise テクノロジー

Autodesk MapGuide® Studio と Autodesk MapGuide® Viewer は、Autodesk MapGuide® Server のクライアント アプリケーションです。これらのクライアントからのリクエストは、HTTP プロトコルを使って Web Extensions に送られます。Web Extensions はそのリクエストを処理した後、Autodesk MapGuide Server に転送します。

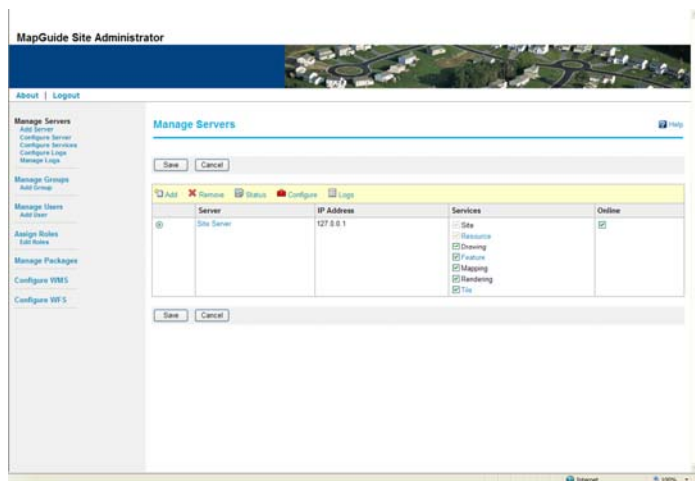
Autodesk MapGuide Server がリクエストを受信すると、リソース リポジトリに格納されているリソースにアクセスし、地図を作成してから Web Extensions に戻し、地図はクライアントに送り返されます。

### Autodesk MapGuide Server

Autodesk MapGuide Server コンポーネントは Autodesk MapGuide サービスをホストし、TCP/IP プロトコルを使ってクライアントアプリケーションのリクエストに応答します。Site Administrator を使ってサイトとサーバを管理することができます。

Site Administrator で可能な作業は次の通りです。

- サイトの管理
- サーバへのサービスの割り当て
- あらゆるサーバ状況のモニタ
- ユーザとグループの定義、およびそれらへの役割割り当てとアクセス許可



Web ブラウザから利用する Autodesk MapGuide Enterprise Site Administrator

### Autodesk MapGuide Extensions

デベロッパは、Autodesk MapGuide Enterprise を使用して、地理空間データとアプリケーションを組織内や Web 上に、またはオフラインやモバイル ポータビリティ向けの DWF 表示テクノロジーを利用してパブリッシュすることができます。

Autodesk MapGuide Web Extensions は、Web Extensions API (Application Programming Interface)を使ってアクセスできる内部コンポーネントです。Web Extensions は、HTTP プロトコルを使ってインターネットやイントラネット上で、Autodesk MapGuide Server が提供するサービスをクライアント アプリケーションに知らせます。

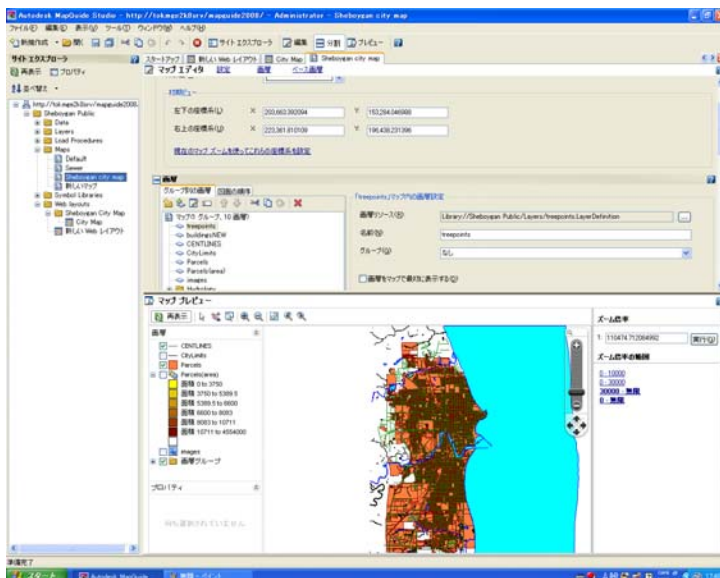
Autodesk MapGuide Web Extensions は、Autodesk MapGuide Server が提供するサービスに基づいて、アプリケーション開発プラットフォームを提供します。Web Extensions API は、強力な API を共有する ASP、JSP、PHP の 3 つの言語つまり環境に対応しています。API には、高度な GIS アプリケーション用の 1,200 以上のメソッドを公開するクラスが 150 以上も組み込まれており、デベロッパは FDO (Feature Data Objects) API を使用することで、データの問題にとらわれることがなくなります。

### Autodesk MapGuide Studio

Autodesk MapGuide Studio は、Autodesk MapGuide Enterprise と MapGuide Open Source 用のオーサリング ツールです。Web アプリケーションで使用される地図や地理空間データを作成するあらゆる局面を管理できます。直感的なインタフェースを使用したアプリケーションの作成、作成中のアプリケーションのプレビュー、データファイルのアップロード、データベースへの接続、地図のスタイル設定など、すべて Web から実行可能です。また、Autodesk MapGuide Enterprise ユーザは、AutoCAD® Map 3D を使ってオーサリングをすることもできます。

Autodesk MapGuide Studio で以下のことが可能になります。

- ファイルベースのデータの読み込み、または外部データベースへの直接接続による GIS データからのリソース作成
- リソースからの地図画層の構築
- 地図画層からの地図作成
- Web レイアウトを使った Web ページへの地図の埋め込み



Autodesk MapGuide Studio

Web レイアウトができれば、プログラミング コードを加えて Web アプリケーションの表示や機能をカスタマイズできます。そして最後に、できあがった Web アプリケーションをインターネットやイントラネットにパブリッシュすれば、表示や利用ができるようになります。

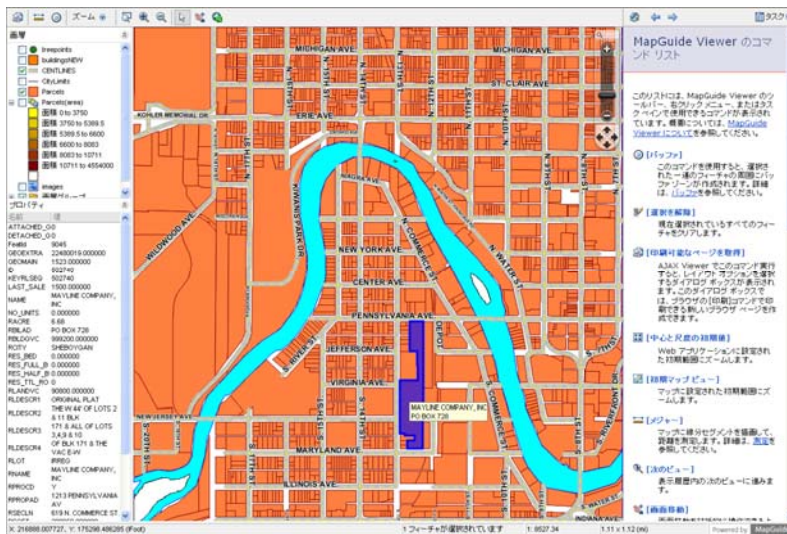
### Autodesk MapGuide Viewer

Autodesk MapGuide Viewer を使って Web ブラウザ上で地図を表示します。

インターネットやイントラネット上で空間データが利用できるようになれば、ユーザはビューアを使ってデータを表示し、利用します。

ビューアには次の 2 種類があります。

1. ダウンロード可能なビューア(Autodesk® DWF™ Viewer)は、Microsoft ActiveX Control ベースのもので、DWF ファイル仕様に完全対応しています。Microsoft Internet Explorer のブラウザのみで動作します。
2. AJAX Viewer (いわゆる“ゼロクライアントビューア”)はダウンロードの必要がありません。Windows 上の Microsoft Internet Explorer や、MacOS® や Linux のような他のオペレーティング システム上の Internet Explorer、Firefox、Safari で動作します。



Autodesk MapGuide Enterprise AJAX Viewer

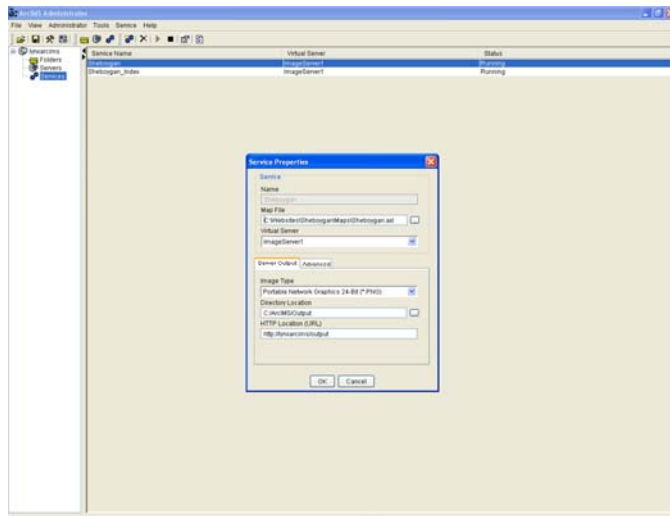
ビューアの表示方法のカスタマイズや、Web レイアウトと呼ばれるテンプレートを使って使用するツールバー コマンドを選択することができます。もちろん、自分でプログラム コードを書いて基本レイアウトにフィーチャや機能を追加することもできます。

## ESRI ArcIMS テクノロジー

ArcIMS は相互作用するいくつかのコンポーネントで構成されており、ユーザはインターネット ブラウザを使って GIS データを表示、クエリすることができます。コンポーネントを追加して、異なるフィーチャをカスタマイズすることができます。

## ArcIMS Spatial Server

ArcIMS Spatial Server には地図やデータにアクセスしたり、データをクライアントに戻す機能が備わっています。



クライアント アプリケーションからアクセスした場合の ESRI ArcIMS Administrator

## ArcIMS Application Server

ArcIMS Application Server はバックグラウンド プロセスとして動作し、受信したリクエストの負荷分散を行います。Application Server は ArcXML で書かれたリクエストのみを処理できるため、ArcXML をサーバに送ったり、Cold Fusion、ASP、.NET または JSP のような他の構文を渡す場合にはコネクタが必要となります。

## ArcIMS Application Server Connector

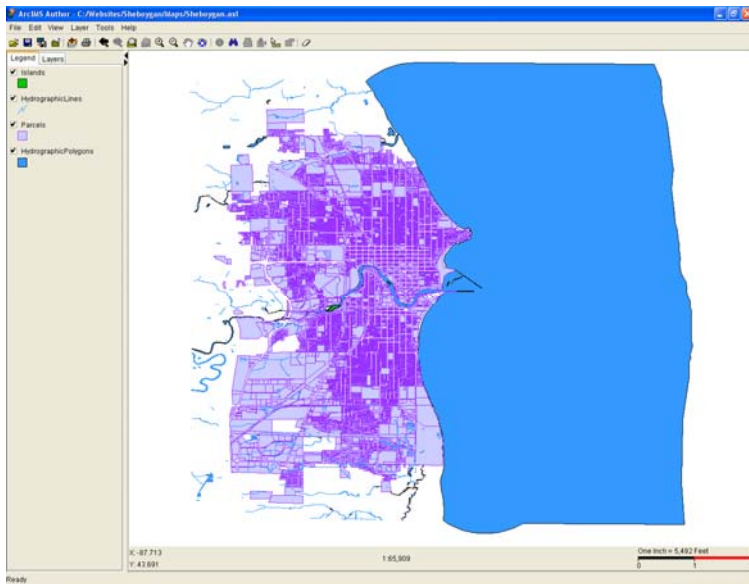
ArcIMS Application Server Connector は、Web サーバと ArcIMS Application Server の間のリンクの役割を果たしています。このコネクタから出力されたリクエストは、ArcXML で書かれています。リクエストが ArcXML であれば、それは ArcIMS Application Server に渡されます。

ArcIMS には以下のようなコネクタがあります。

- ArcIMS Servlet Connector
- Web Map Server (WMS) Connector
- ArcIMS Cold Fusion Connector
- ArcIMS ActiveX Connector
- ArcIMS .NET Link
- ArcIMS Java Connector

### ArcIMS Author

ArcIMS Author を使えば、地図画層からの地図の作成、スタイルと記号の設定、クエリの設定が可能になります。ArcMap も ArcIMS のオーサリングで利用できます。



ESRI ArcIMS Author

### ArcIMS Designer

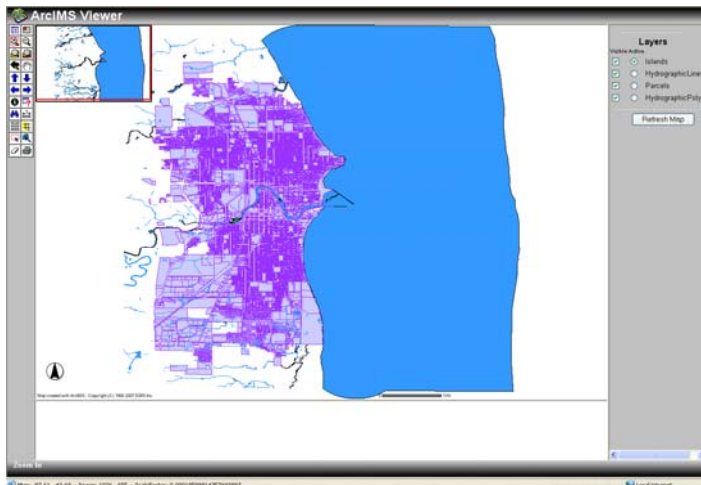
ArcIMS Designer を使えば、クライアントが利用できる選択オプションの一連のステップを通して Web アプリケーションを作成できます。

### ArcIMS Viewer

ArcIMS Viewers ではリクエストを生成し、サーバで処理されるクライアント側のレスポンスを処理します。ArcIMS は、Java Custom、Java Standard、そして HTML の 3 つのビューアを装備しています。

### HTML Viewer

HTML Viewer は HTML、DHTML、そして JavaScript を使って書かれています。すべてのリクエストは JavaScript を使って生成され、すべてのレスポンスは JavaScript を使って構文が解析されます。このプロセスによって、このタイプのビューア用に書かれたアプリケーションは複数の種類のブラウザ上で動作できるようになります。



ESRI ArcIMS HTML Viewer

### Java Viewer

ArcIMS には Java Custom と Java Standard の、2 つの Java ビューアが装備されており、どちらも同じ機能を持っています。Java Viewer を利用するには 2 種類のダウンロードが必要になります。まず、Java Runtime Environment で、Java 2 アプレットを使用している場合には必要となります。次が、アプレットで ArcIMS サイトと通信をする場合に必要な ArcIMS Viewer コンポーネントです。

## 移行の事例

このセクションでは、標準的な ArcIMS アプリケーションから Autodesk MapGuide Enterprise に移行するための定義とガイダンスについて説明します。

このアプリケーションの例では、ArcIMS Author と Autodesk MapGuide Studio のどちらも、地図の作成に SHP ファイルを使用しています。次に、ArcIMS Designer と Autodesk MapGuide Studio をそれぞれ使用して、地図から 2 つのアプリケーションを作成します。本質的には、ArcIMS Designer と Autodesk MapGuide Studio の Web レイアウトでは、それぞれの環境で同じことを行います。しかし、Autodesk MapGuide Studio では地図の作成、機能の追加、Web レイアウトの設計、アプリケーションのパブリッシュがすべて同じ開発環境で実現できます。ArcIMS で同様の機能を発揮するには 2 つの別のプログラムが必要になります。アプリケーション開発に使用する様々なコンポーネントと密接に統合する Autodesk MapGuide Studio は、より効率が高く、迅速にアプリケーションの開発を行うことができます。

### プラットフォームと環境

この移行の事例で使用するシステムの設定について、以下で詳しく説明します。

#### Autodesk MapGuide Enterprise

- オペレーティング システム: Microsoft Windows XP Professional
- Web サーバ: Microsoft IIS 6
- MapGuide Open Source 上で構築
- .NET 2.0

#### ESRI ArcIMS

- オペレーティング システム: Windows XP Professional
- Web サーバ: Microsoft IIS 6.0
- Apache Tomcat 5.5
- ArcIMS 9.2

### データの移行

既存の ArcIMS アプリケーションから Autodesk MapGuide Enterprise にデータをインポートするのは簡単です。Autodesk MapGuide Studio で ArcIMS SHP ファイルを読み込むだけです。次のセクションでは、ArcIMS と Autodesk MapGuide Enterprise にデータを読み込む方法について説明します。

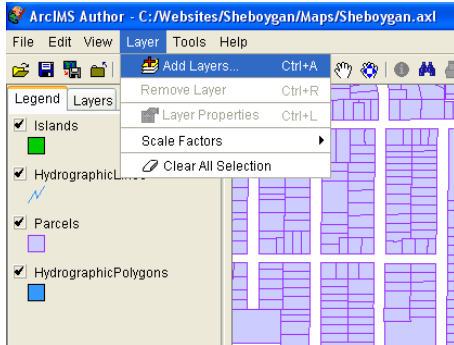
ArcIMS の地図にデータを追加するには ArcIMS Author を使用します。既定値(SDE を追加しない)では、SHP ファイルとラスター イメージ ファイルの追加だけに対応しています。データの追加方法は次の通りです。

1. [Layer] > [Add Layers..]の順にクリックします。

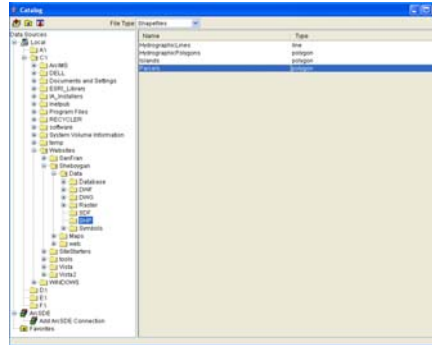
データ カタログが表示されます。

2. データ カタログで希望するレイヤを選択します。

地図データレイヤが地図に追加されます。



ArcIMSで地図データを追加する



ArcIMS データ カタログ

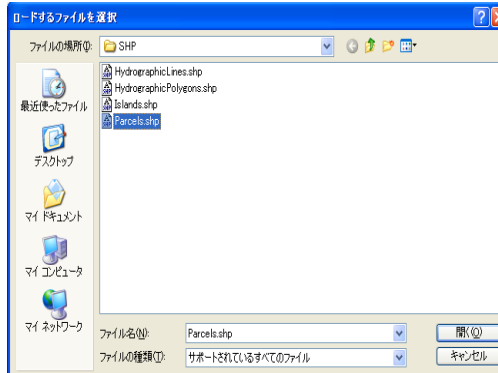
Autodesk MapGuide Enterprise の地図にデータを追加するには、Autodesk MapGuide Studio を使用します。既定値では、Autodesk MapGuide Studio は SDF、SHP、DWG™、DWF、DXFおよびラスター イメージ ファイルを追加することができます。また、Studio は内蔵された FDO プロバイダを使って、Oracle、ArcSDE®、MySQL、ODBC、ラスター、WFS そして WMS といったいくつかのデータ ソースに接続することも可能です。Studio でこれを行う方法は次の通りです。

1. [ファイル]>[新規作成]>[プロシージャをロード]の順にクリックします。  
[ロードするファイルを選択] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. 希望する地図データソースを選択します。ここでは、区画 (Parcels) の SHP ファイルを選択します。

「新しいプロシージャのロード」画面が表示されます。この時点で、Autodesk MapGuide Enterprise では ArcIMS よりも多くのオプションが表示されます。



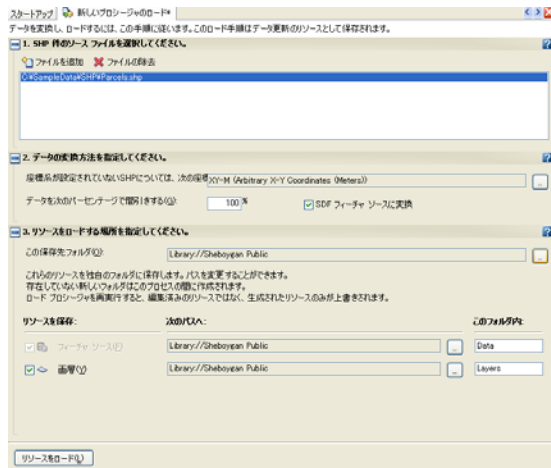
Autodesk MapGuide のプロシージャをロード



Autodesk MapGuide での地図データの選択

3. この画面で、さらにファイルを追加したり、データに座標系を割り当てたり、データと地図画層に使用するディレクトリを選択することができます。

4. 画面左下の[リソースをロード]をクリックします。ここでデータが読み込まれ、地図画層が作成されます。



Autodesk MapGuide Enterprise の [新しいプロセスのロード] ダイアログ ボックス

**ヒント:** Autodesk MapGuide Studio では、外部データベースや Web サービスへの接続は次のように行います。

1. [ファイル]>[新規作成]>[データ接続]の順にクリックします。
2. データ接続の種類を選択します。

この時点では、ArcIMS Author と Autodesk MapGuide Enterprise のどちらもほぼ同じ手順数で同じソース データが取り込まれます。

## 地図画層の移行

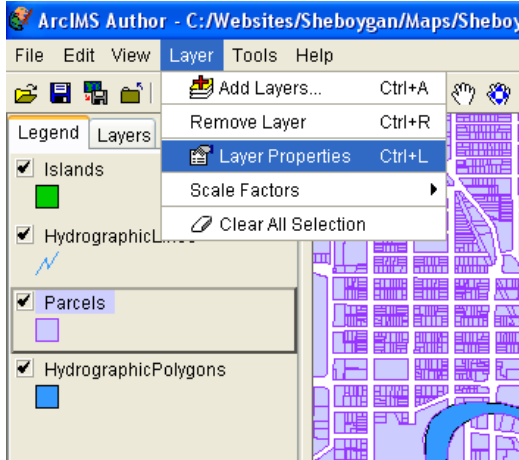
地図画層のプロパティを ArcIMS から Autodesk MapGuide Enterprise に移行するには手動で行う必要がありますが、そのプロセスは簡単で、(増えはしないものの)同数のスタイルとオプションが該当画層に適用されます。

ArcIMS と Autodesk MapGuide Enterprise のどちらも、地図データを追加したときに地図画層が作成されていました。今度は、スタイル、表示範囲、ラベル、ツールチップ、主題画層を区画の地図画層に追加、変更する考えます。

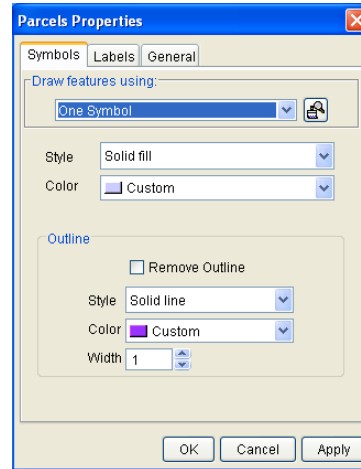
ArcIMS Author の場合、地図画層プロパティを選択し、[Layer Properties]ダイアログ ボックスで画層プロパティを編集するには、次のように行います。

1. 地図の凡例で希望する画層を選択します。
2. [Layer]>[Layer Properties]の順にクリックします。
3. [Layer Properties]ダイアログ ボックスが表示されます。

ここで画層のスタイルの変更、ラベルの作成、表示範囲の設定を行うことができます。



ArcIMS layer properties を選択

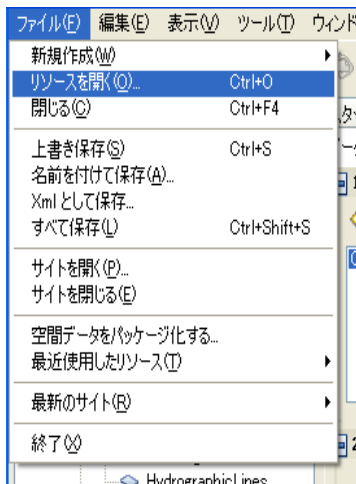


ArcIMS の[Parcels Properties]ダイアログ ボックス

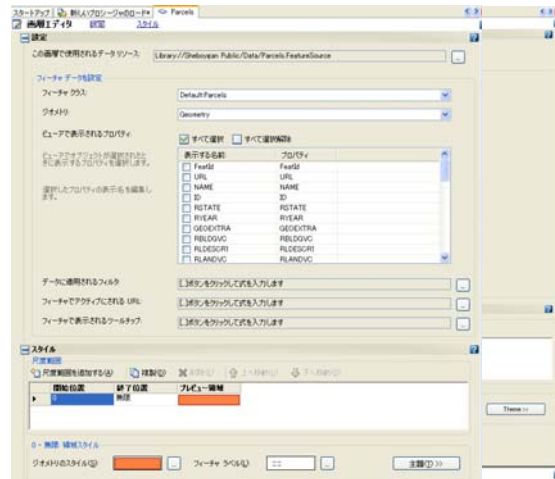
Autodesk MapGuide Studio では、画層エディタを選択し、地図画層リソースを開いて画層のプロパティを編集します。画層エディタを開くには次のように行います。

1. [ファイル]>[リソースを開く]の順にクリックします。
2. 画層リソースを選択して開きます。

画層エディタの画面が表示されます。



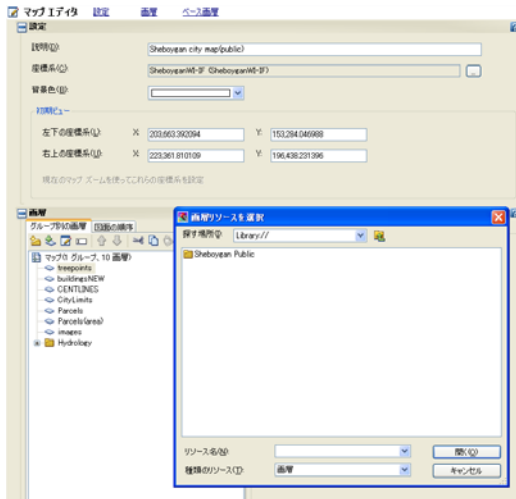
画層プロパティへのアクセス



Autodesk MapGuide の[画層エディタ]ダイアログ ボックス

Autodesk MapGuide Enterprise で地図画層が編集できたなら、マップにそれを追加する必要があります。

1. [ファイル]>[新規作成]>[マップ]の順にクリックします。
2. [画層]部分をスクロールし、[新しい画層を追加]ボタンをクリックします。
3. 地図画層を追加し、地図を保存します。



Autodesk MapGuide Enterprise で地図に画層を追加

これでマップに機能を追加できるようになりました。

## 機能の移行

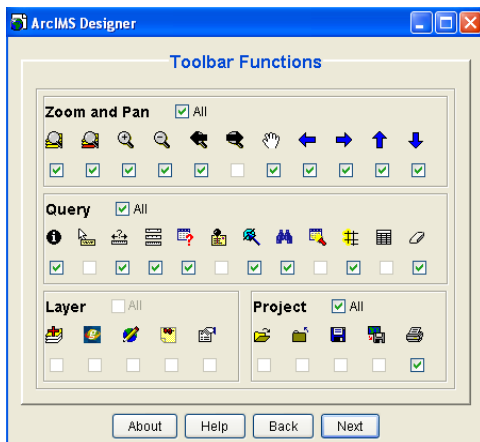
これまでで Autodesk MapGuide Enterprise へのデータの追加方法と、追加した地図データの画層プロパティを編集する方法を説明してきました。次は、地図機能を追加する必要があります。ここでは、例として基本的な地図機能 (拡大、画面移動)、検索の実行、フィーチャ情報の検索の場合について見てみます。次のセクションでは、まず ArcIMS でのアプリケーション機能の作成について説明します。

### 機能の追加

アプリケーションの機能として、HTML ビューアを使用するために ArcIMS の既定の機能を使用します。まず ArcIMS Designer で作業を行います。

1. ArcIMS Designer を開き、ウィザードをはじめます。
2. Web サイトのディレクトリとサイト タイトルに名前を付けます。
3. ArcIMS Author で作成した地図サービスを追加します。
4. Web サイトのテンプレートを使用するために、HTML ビューア オプションを選択します。
5. 地図の範囲を設定します。
6. 概略地図用に地図サービスを選択します。
7. ユニットを選択します。
8. ツールバー機能(既定値のオプション)を選択します。
  - 拡大と画面移動のコントロール
  - クエリ ツール: 確認、測定、ユニットの設定、クエリ ビルダ、選択ツール、検出、バッファ、およびすべての選択の解除
  - 印刷

**注:** ESRI ArcIMS HTML Viewer では地図ヒントが利用できません。

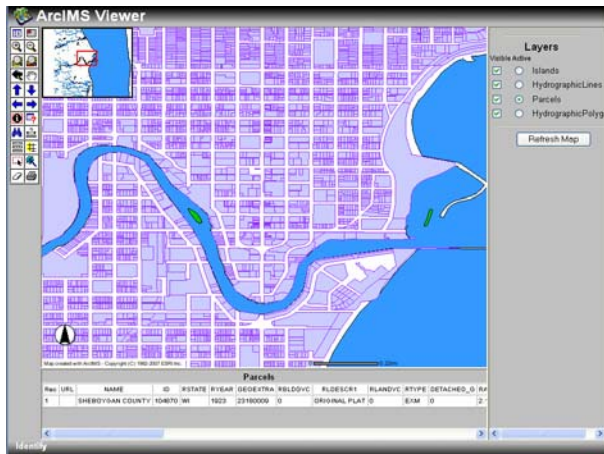


ArcIMS で HTML viewer を利用するための既定値のツールバー機能

9. Web サイト ディレクトリ ロケーションを選択します。

10. [Create Web Site]をクリックします。

これでアプリケーションが作成され、これが ArcIMS アプリケーションの結果です。



ArcIMS HTML Viewer アプリケーション

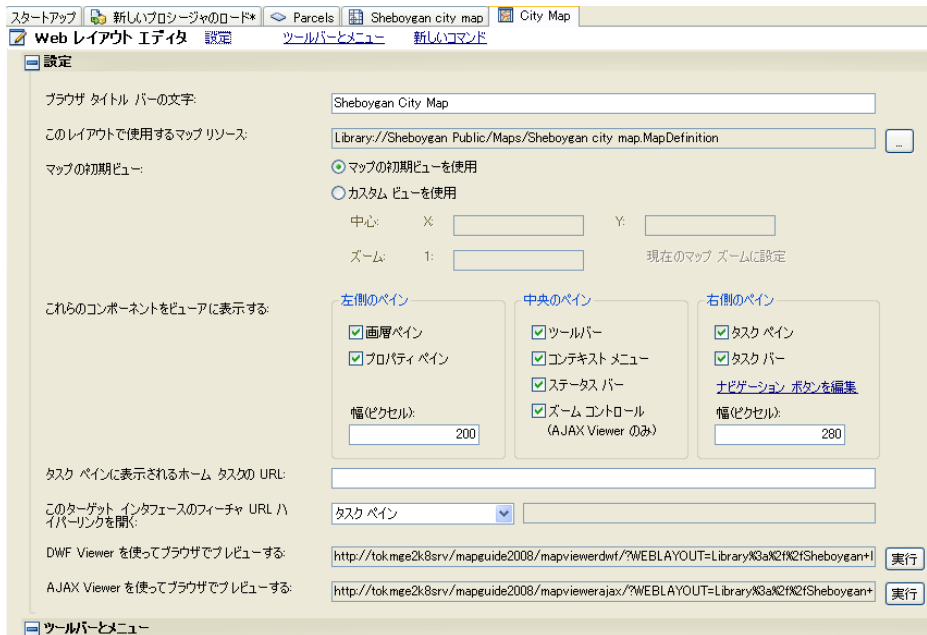
区画画層をアクティブにし、地図の中の区画をクリックすると、その区画に関する情報が地図の下枠に表示されます。また、区画画層をアクティブのままにして、[Find]ボタンをクリックし、フィールド値、たとえば所有者名に基づいて区画を検索することができます。

Autodesk MapGuide Studio を使用して、アプリケーションの機能と Web サイトを作成します。

まず、新たに Web レイアウトを作成する必要があります。

1. [ファイル]>[新規作成]>[Web レイアウト]の順にクリックします。
2. このレイアウトで使用するマッピングソースでパブリッシュしたい地図をブラウズします。

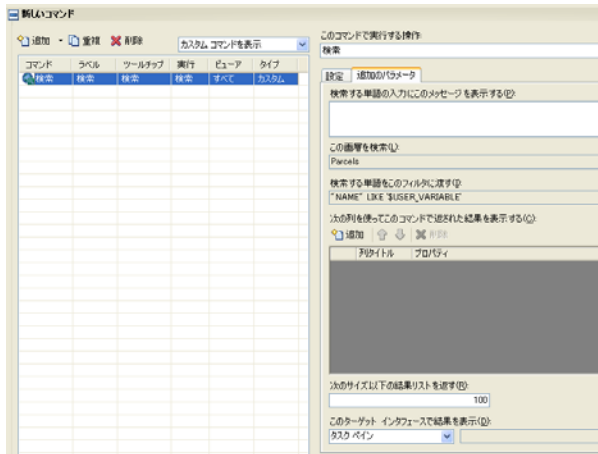
3. レイアウトで表示したいコンポーネントを選択します。ご覧のように、Autodesk MapGuide Studio は ArcIMS Author よりも Web レイアウトのカスタマイズではるかに優れています。
4. ツールバーで表示させるツールを選択します。
  - 拡大と画面移動
  - ツールの選択: 選択、ポリゴンごと、半径ごと、選択内、選択のクリア
  - 計測、バッファ
  - 印刷、コピー、地図の更新



### Autodesk MapGuide Studio Web レイアウトエディタ

カスタム コマンドを作成するオプションもあります。次に、区画検索コマンドを追加します。

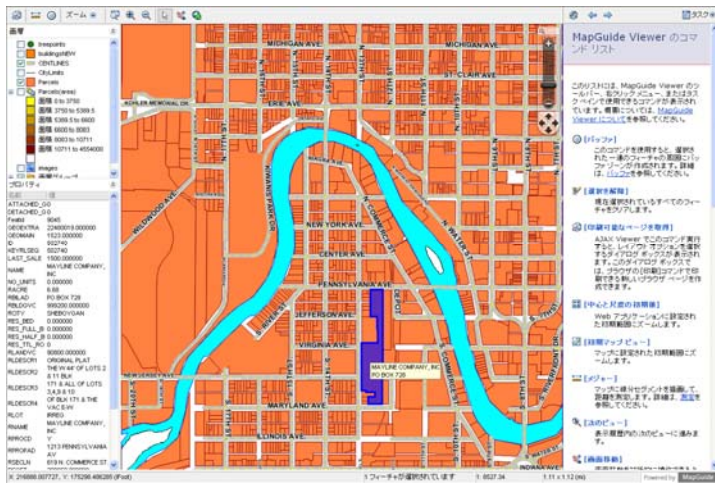
1. 新しいコマンド部分に移動します。
2. [追加]>[検索]をクリックすると、検索コマンドオプションが表示されます。
3. [設定]タブで、実行する検索の種類を記述します: 区画所有者。
4. ユーザ プロンプトを加えます。
5. [追加のパラメータ]タブで、検索する区画画層を選択します。
6. [検索する単語をこのフィルタに渡す]ボタンをクリックします。
7. プロパティを[NAME]で、条件に[Like]を選択し、値として \$USER\_VARIABLE を選択します。



8. ツールバーとメニューセクションに移動し、ツールバーに新しいコマンドを加えます。

9. レイアウトを保存し、[AJAX Viewerを使ってブラウザをプレビューする]ボタンをクリックします。

これが最終的にできあがった Autodesk MapGuide Enterprise アプリケーションです。



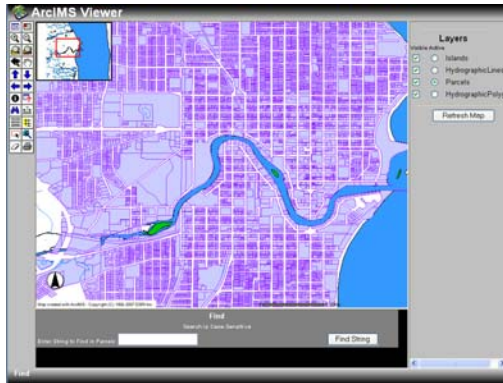
Autodesk MapGuide AJAX Viewer

区画を選択すると左枠に表示される区画情報は ArcIMS にそっくりですが、該当区画もハイライト表示されている点に注意してください。地図ヒント(ツールチップ)も Autodesk MapGuide AJAX Viewer には標準で装備されていますが、ArcIMS HTML Viewer には装備されていません。

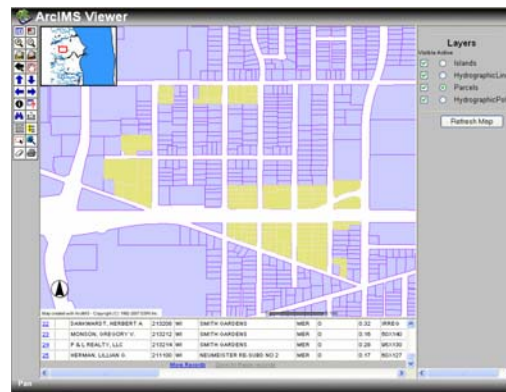
**区画の検索**

ArcIMS Viewer では、区画の検索は HTML Viewer に標準装備されている Find または Query Builer 機能を使って実行します。

## Autodesk MapGuide Enterprise への移行 – ESRI ArcIMS ユーザ向けガイド



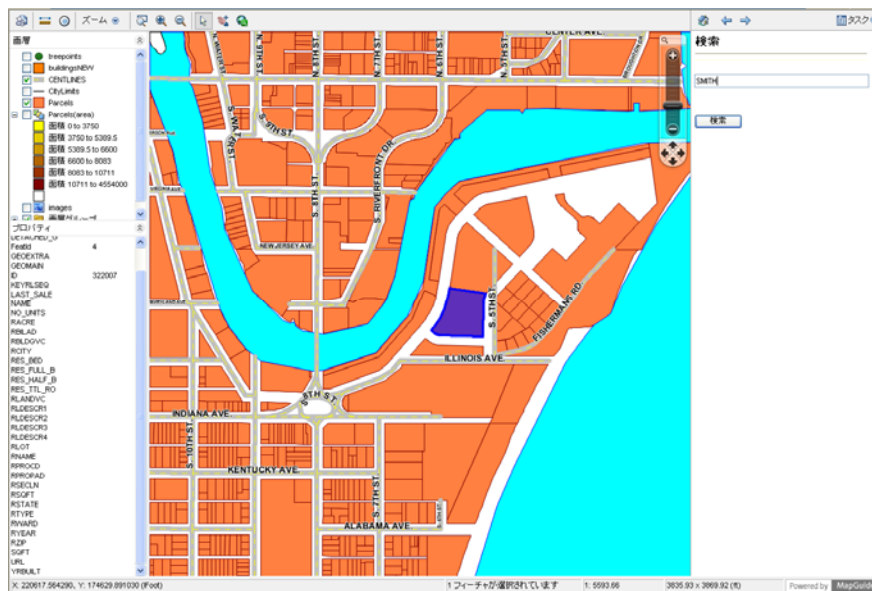
ArcIMS: [Find]ツールをクリックすると検索用インターフェイスが表示される。



ArcIMS: SMITH と入力し、クエリを実行して表示された結果。

Autodesk MapGuide Viewer でこの同じ機能を実行するには、先ほど作成したカスタム検索コマンドを実行します。

1. タスクメニューで、[検索]をクリックします。
2. **SMITH** と入力し、[検索]をクリックします。



Autodesk MapGuide Enterprise: 所有者の検索で選択された区画と情報

## 機能の比較

以下の表では Autodesk MapGuide Enterprise と ESRI ArcIMS の機能を並列表記して比較しています。

| 機能                        | Autodesk MapGuide Enterprise | ESRI ArcIMS                   |
|---------------------------|------------------------------|-------------------------------|
| オープン ソース ソフトウェアのオプション     | ✓                            |                               |
| 統合された開発環境                 | ✓                            |                               |
| 負荷バランシング                  | ✓                            | ✓                             |
| 外部データソースへの直接接続            | ✓                            |                               |
| リモート サーバ管理                | ✓                            | ✓                             |
| AJAX テクノロジーを使ったビューア オプション | ✓                            |                               |
| Google Earth™ のネイティブ対応    | ✓                            |                               |
| ArcSDE へのネイティブ接続          | ✓                            | ✓                             |
| Oracle へのネイティブ接続          | ✓                            | ArcSDE                        |
| SQL Server へのネイティブ接続      | ✓                            | ArcSDE                        |
| その他の地図オーサリング環境            | AutoCAD® Map 3D              | ArcMap 9.2                    |
| 開発プラットフォーム                | PHP、.NET、Java                | Cold Fusion、ActiveX、.NET、Java |

## 終わりに

ご覧の通り、ArcIMS と Autodesk MapGuide Enterprise は製品構造、コンポーネント、機能がよく似ています。そのため、ArcIMS で利用していたアプリケーションと同じ機能と特徴を Autodesk MapGuide Enterprise に持たせることは可能です。

ただし、Autodesk MapGuide Enterprise は最新のテクノロジーとオープン スタンドアートを基盤にしているため、導入する組織にとっては Autodesk MapGuide Enterprise がより注目すべき Web の GIS プラットフォームとなるいくつかの相違点があります。

- Autodesk MapGuide Studio: ArcIMS 環境ではコンポーネントが別れている多くの機能を兼ね備えた統合型アプリケーション。結果的に、迅速な開発が可能になります。
- Google Earth™ マッピング ツールにネイティブ対応: Autodesk MapGuide Enterprise では、Autodesk MapGuide の地図と画層を Google Earth に直接パブリッシュでき、Google Earth は実質的に Autodesk MapGuide Enterprise からのデータを利用できるクライアント アプリケーションのように動作します。
- オープン ソース オプション: MapGuide Open Source プロジェクトによりソフトウェア開発をコラボレーションすることで、すばやい技術革新、頻繁なリリース サイクル、所有コストの低減などのメリットが生まれます。

## 出典

Autodesk MapGuide Enterprise の詳細については、以下のリソースを参照してください。

### Autodesk MapGuide Enterprise の Web サイト

[www.autodesk.co.jp/mge](http://www.autodesk.co.jp/mge)

### Autodesk MapGuide Studio の Web サイト

[www.autodesk.co.jp/mapguidestudio](http://www.autodesk.co.jp/mapguidestudio)

### Autodesk MapGuide デモサイト

[www.autodesk-mapguide.net/enterprise](http://www.autodesk-mapguide.net/enterprise)

### Autodesk MapGuide 60 日間無償体験版ダウンロード

[www.autodesk.co.jp/mge](http://www.autodesk.co.jp/mge) より「製品体験版(無償)」のリンクへ

### ホワイトペーパー(技術ドキュメント)

[www.autodesk.co.jp/mge](http://www.autodesk.co.jp/mge) より「ホワイトペーパー」のリンクへ

Autodesk MapGuide 実装最適化のための指針

共有可能なマークアップの作成

リソースでの作業

Autodesk MapGuide 6.5 から新しい MapGuide テクノロジーへの移行

新しい MapGuide テクノロジーで開発を行う利点

### 開発者向けサンプル(英語)

[Sample Applications](#)

### OSGeo財団

[OSGeo日本支部](#)

[OSGeo本部](#)

### MapGuide Open Source の Web サイト(英語)

<http://mapguide.osgeo.org/>

### オープンソースデータ接続テクノロジー(FDO)(英語)

[FDO Project](#)

# 補足資料: Autodesk MapGuide Enterprise の特長とメリット

## 簡単な導入と展開

IT 管理者は、Autodesk MapGuide Enterprise に搭載されている Apache Web サーバ、PHP そして Java コンポーネントを高く評価しています。このシステムはプログラミング環境 (.NET、PHP、Java) や Web サーバ (IIS または Apache) を問わず、自動的に Web サーバとアプリケーション サーバを構築します。Autodesk MapGuide Enterprise の Linux 版には、コンパイル済みの RPM パッケージ マネージャが付属しているため、すばやくインストールして実行することができます。Windows 版と Linux 版の両方に対応する単独の統合インストーラにより、Autodesk MapGuide Enterprise のセットアップと展開は CD を挿入してクリックするだけの簡単なものです。

## 接続と統合

Autodesk MapGuide Enterprise では Oracle や Microsoft SQL Server に格納されている企業データへのアクセスが可能になります。企業データとの容易な統合により、豊富で複雑なマッピング アプリケーションをすばやく実装することができます。

## オープン地理空間コンソーシアム(OGC™) Web サービス サポート

外部の全く異なるシステムとの相互運用が可能に。Autodesk MapGuide Enterprise は Mapping Services (WMS) と Web Feature Services (WFS) を使用して、ラスター画像やベクトル画像としてデータを利用し、パブリッシュすることに対応しています。

## 高品質な印刷とプロット

高品質なプレゼンテーション用材料を簡単に作成できます。紙のサイズを選択すれば、印刷する地図や地図ビューをプレビューすることができます。様々な最終出力サイズに対応可能な拡大オプションを使って印刷します。プロット縮尺、タイトル、凡例、地図縮尺、北向き矢印、URL、現日時、そしてロゴ マークまでの要素をコントロールしてページに印刷することが可能です。

Autodesk, AutoCAD, Autodesk MapGuide, DWF, DWG, and DXF are registered trademarks or trademarks of Autodesk, Inc., in the USA and/or other countries. All other brand names, product names, or trademarks belong to their respective holders. Autodesk reserves the right to alter product offerings and specifications at any time without notice, and is not responsible for typographical or graphical errors that may appear in this document. © 2007 Autodesk, Inc. All rights reserved.

The Autodesk logo is positioned vertically on the right side of the page. It consists of the word "Autodesk" in a blue, sans-serif font, with a registered trademark symbol (®) at the top right of the letter 'k'.